

沖縄県脳卒中等リハビリ友の会連合会（沖リ連）

社会参加を目指そう 会長 伊波栄信



今年四月、新たな組織として「沖縄県脳卒中等リハビリ友の会連合会（沖リ連）」が発足し、去る六月二十八日（土）、宜野湾市社会福祉センターで「結成の集い」が開催されました。

「病を背負って健康の有難さを知る」と言う言葉を聞いたことがありましたが、私はその言葉を聞き流していたように思います。現在、そのついで脳梗塞の後遺症を背負い、今年十二月が来ると早や十年になります。

県立中部病院へ救急車で搬送され即入院。その後、沖縄リハビリテーション病院へ転院、約四カ月間のリハビリが待ち受けていました。そこで初めて、療法士のOT・PT・STの横文字にふれ、戸惑いながらお世話になりました。私は、病がきっかけとなり療法士の仕事を認識、改めて感謝申し上げます。

当時、突然の入院で右半身麻痺となり、身体の自由が利かず回復するだろうかと不安と絶望感のどん底でありました。しかし、年若い療法士の皆さんに励まされ取り組んだりリハビリ、そして愚痴をこぼしてもいやな顔一つ見せず、逆に私を励まして下さった療法士。その熱意が今だに伝わってきます。

退院を前にして考えたのは、同じ後遺症者の仲間との

交流の場でした。それは時宜よく、通院で見えた具志川市リハビリ友の会・会長との出会いでした。退院後に早速入会。その後、前身の沖リ協へ入会し今につながる。私は脳梗塞の後遺症が縁となり、同じ境遇にある身体の不自由な方と交流をすることができました。あえて「身体が不自由」と申し上げますのは、リハビリで入院中、「障害者」という自覚は全くありませんでした。しかし、退院後の社会は小生のような後遺症者を障害者と称しました。リハビリに取り組む皆さんは、社会の目線を気にせず、身体機能の回復とその維持へ励んでください。

さて、県内各地域には不慮の事故や病によりリハビリに励まれる皆さん方や地域でリハビリ友の会会員として交流、身体機能の回復に努める方も多数おられると思います。そんな境遇の中、皆さんが連携して発足したのが沖リ連です。その目的は脳卒中等による身体麻痺や言語障害後遺症者が相互の親睦、情報交換を図り、社会参加目指し脳卒中等の予防、再発防止及びリハビリテーションに関する知識の啓発を推進するものです。

身体機能の回復・維持には日頃のリハビリも大切ですが、同じ境遇を背負う仲間との交流、語り合いの場へ参加することも大きなリハビリへとつながります。これからの社会参加



沖リ連 結成の集い

おもと会地域リハビリ支援センターのご案内

- 1. リハビリに関する相談 0120-333-432
- おもと会総合案内センター
- 2. 講習会の開催
- 3. 講師の派遣
- 4. 当事者団体の支援
- 5. 地域リハビリ連携ネットワークの構築

みなさまのご意見・ご要望をお聞かせください。詳しくはホームページまで。

おもと会地域リハ

検索

を目指し、「前向きに・明るく・楽しく」交流を深め、明日への健康増進・維持・回復へと地域友の会へ入会して見ませんか。まだ未結成の地域は二人以上の皆さんで地域友の会（個人会員）として沖リ連へ加入できます。この場合は年会費一人2千円。また、5名以上の会員で結成した場合は年会費千円。会長の選任をお願いします。問い合わせは、電話098（964）3446 沖縄県脳卒中等リハビリ友の会連合会 会長・伊波栄信

平成20年7月27日(日)

『失語症コミュニケーション講座』

講師：照屋智美（大浜第一病院 言語聴覚士）

「失語症」は脳卒中などが原因でコトバを「話す・聞く・書く・読む」ことが不自由になる障害ですが、目に見えない障害であるため、医療・福祉関係者でも十分に理解されていません。「失語症コミュニケーション講座」は関係者を対象に、失語症のことを理解して適切なケアを提供できるようになることを目的に開催しています。



7月27日(日)、おもととよみの杜(豊見城市渡嘉敷)にて『失語症コミュニケーション講座』を開催しました。4年前から毎年開催し、大変好評を博している講習会で今回も36人の方が参加してくれました。

おもととよみ 地域生活支援センター 広報誌

- 講習会の内容
1. 講義「失語症について」
 2. 講義「コミュニケーションの方法や工夫」
 3. 演習「会話・話しことばの基本」
 4. 演習「失語症の方と会話の実践」



講義風景

午前中は「失語症について」と「上手にコミュニケーションをとるための工夫」について講義を行いました。午後は3人ずつのグループに分かれて演習を行いました。まず、言語聴覚士を相手に「失語症者の会話の基本練習」を行いました。最初は戸惑いがありました。慣れるにしたがつて表情や声の工夫、ゼスチャーを交えた会話をできるようになりました。最後の1時間はグループごとに失語症の方が加わり、「失語症の方と会話の実践」を行いました。参加者も緊張しますが、失語症の方も初対面の人と会話するわけですからお互いに緊張します。しかし、今日の講義と演習で学んだ知識と

“笑顔”ですぐに打ち解けました。会話が弾み1時間の「実践会話」の時間はあつと言つ間に過ぎ、名残惜しそうな様子が各テーブルに見られました。

講師「コメント」

失語症のことを理解し、失語症の方と上手に「コミュニケーション」できるようにしたいという熱い思いを参加者の皆さんから感じました。講習会で学んだことを



失語症の方と会話の実践

日々の職場で実践できるように頑張られた皆さんの活躍を期待しています。

また、台風の影響で風が強い1日でしたが、会場に来て協力していただいた失語症の方たち(1人)にも心より感謝いたします。ありがとうございました。

例年開催している講習会ですが、毎回参加者と失語症の方の真剣な、そして楽しい雰囲気感動すら覚えます。

今回の講習会にはあなたも参加してみませんか！

8月 2008